

第4回一宮町地域公共交通活性化協議会議事録概要

1 日 時 平成21年7月10日(金)13時30分から16時50分

2 場 所 一宮町保健センター3階多目的室

3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 配布資料

- ・一宮町地域公共交通活性化協議会 会議次第
- ・議題 一宮町地域公共交通総合連携計画調査策定業務の企画提案プレゼンテーション
- ・議題 一宮町地域公共交通総合連携計画調査策定業務の業者選定について

5 議事の経過

事務局長 本日は森委員、成田委員、伊藤委員が欠席となっておりますのでご報告致します。それでは、只今より第4回一宮町地域公共交通活性化協議会を開会します。はじめに会長よりご挨拶を申し上げます。

会長 こんにちは。本日は、大変お忙しい中、第4回一宮町地域公共交通活性化協議会開催にあたり、ご臨席を賜りまことにありがとうございます。6月25日に、連携計画調査策定業務のプレゼンテーションをして頂く、コンサルタント5社を選定して頂きました。本日はその5社の説明を聞き、1社を選定する作業を行って頂くことになっています。おそらく長時間かかる会議になるかと思いますが、よろしくご審議をお願い致します。

事務局長 ありがとうございました。それでは本日の議題に入らせて頂きます。規約第8条1項に基づき会長が議長となり進行致します。会長、よろしくお願い致します。

会長 議題(1)「一宮町地域公共交通総合連携計画調査策定業務の企画提案プレゼンテーション」を上程させて頂きます。事務局お願いします。

・・・・事務局説明・・・・

事務局 説明15分質疑15分です。説明終了2分前になりましたらベルを鳴らします。

では(株)オリエンタルコンサルタンツさんお願い致します。

・・・・(株)オリエンタルコンサルタンツプレゼンテーション・・・・

事務局 説明終わりました。質疑に入りたいと思います。よろしくお願い致します。

川上委員 3点あります。一宮町というのはどういう所だとお考えで、こういう計画を提案したかというのが一つ。一宮町はコンサルタントの目から見て、なぜ公共交通を望んでいるのかが2点目。3点目は、計

画実行とおっしゃいましたが、例えば計画を実行するに当たって試運転をする場合に、最初の6ヶ月はこういう方法にトライして、最後の6ヶ月は違う方法にトライするという様なデータをとる実行計画をお考えになっているのかどうかお伺いします。

回答

まず一宮町がどういう所かという認識ですが、提案書を書くにあたりまして現地をいろいろ見させて頂いています。正直な感想は、日中は人通りも少なく賑わいにかけるのかなという感想です。従って公共交通についての検討は、公共交通を走らせることが目的ではなく、町に賑わいを取り戻すことや町民の方の足を確保しながら日常生活の利便性を向上させるというところに目的を置かないと、ただバスを走らせて終わりとなりかねないという危惧はしていますので、そういうところに目標を置いて検討していきたいと考えています。

2点目ですが、公共交通に対しては一宮町だけではなく地方の町ではよくありますが、需要が少ないのでバスの便が減っていく、バスの便が減っていくと更に客の数が減っていき赤字になり、ゆくゆくは廃止ということがよくあります。従って、行政、バス会社、交通事業者だけの話ではなく、住民が自らの足を確保していくという意識がないと長続きはしないと考えていますので、住民が自腹を切って少しでも費用を負担することがあっても、公共交通サービスを皆で支えていくという意思表示をしてもらわないとなかなか公共交通の確立は難しいと思います。3点目の実行計画についてですが、今回の事業では、今年で計画立案して、最大三年間実証運行に補助が出ることになっていますので、ただ漠然と同じものを走らせるのではなく、データを取りながら段階を踏んでその内容が良いのか悪いのかをチェックしながら最大3年間を使っていきたいと思っています。先ほどの半年というお話ですが、一定の運行では経験上最低でも1年間は走らせる必要があると思いますので、1年走らせてみてそのデータや住民の意向等を確認しながら、良かったのか悪かったのか、直す所はあったのかなかったのかを確認しながら2年目に望んでいき、3年間のうちにどのレベルの運行サービスで始めるのかというのを確定させることに目標を置いて、3年間の補助期間を有効に使っていきたいと考えています。

川上委員

アンケートでどうやって30%の回収率を達成しようと考えているのでしょうか。今のお話を聞くと一宮町のことをいろいろと推測しているようですが、普通のアンケートでさえ回収率30%なんてないし、一宮だったら何もしなくても3%返ってくれば良いでしょう。だからその30%という根拠を知りたいと思います。

回答

我々はよくこのような住民アンケートを業務で実施しますが、30%は経験則としての値です。地域によってばらつきはありますが、3%ってことはないと思っています。30%はあくまで目標値ですので、

それに満たない場合には更にお願ひ等をして追加で回収するようなことも検討していく必要があると思います。今のところは30%でスタートしようと考えております。

石尾委員 3点あります。この計画の根幹にあるのは、現状の改善なのか未来の創造なのかどちらでしょうか。

回答 未来を見据えることは重要だと思いますが、そこに急ぎすぎるあまり夢のようなプランに先に着手してしまうのは、我々の経験上失敗する例が多いと思います。従って、ビジョンを持つのは良いのですが、実際に実証する部分というのは、今の悪い所を直していく為になにをするか、極論を言えば新しいシステムを導入することありきではないと思っています。今の現況のバスであったり。

石尾委員 現況のバスとか現状の交通を使ってというのは当たり前なので、その点についてお話をしているのではありません。未来を見据えて現状を改善するのと現状の改善から入って未来を創るのとでは出来上がりは違うと申し上げているのですが、どちらを選んでいるのでしょうか。

回答 将来的な形を想定してどういう風にそこに向かって検討していけば良いのかと考えていますので、そういう意味では未来を見据えて現況を改善すると考えています。

石尾委員 でもお話の中では未来の姿が出ていなかった様に思います。2点目の質問ですが、福祉と環境の整備と町の活性化の3つの項目をどのように取り扱えば良い公共交通が生まれると思いますか。

回答 バス等は利用者からすれば同じなのですが、運行する側からすれば、行政では福祉は福祉の予算で運行するもの、バスであれば交通事業者が運行するものということで分かれています。町の活性化や高齢者の福祉をバラバラに考えるのはまずいと思います。全体として、高齢者の日常生活の移動が便利で、中心市街地への買い物客にも便利で、どういう手段で分担していくのかをトータルで考えていく必要があると思っていますので、福祉がどうのこうのではなくて、トータルで考えた時にこの部分は福祉で対応、この部分は交通事業と協力してバスで対応というふうに役割分担を予め整理して、どういうシステムを検討していったら良いかという計画を作っていく必要があると考えています。

石尾委員 トータルと言いながらそれぞれの目的に応じて使い分けを行なうというお話ですね。

回答 極論で言えばそのとおりです。福祉の交通というのはどうやっても需要がまとまらないので、通常のバスでサービスをするのは困難だと思っています。

石尾委員 3点目ですが、観光客へのアンケートが駅でのアンケートになっていたのは何故でしょうか。

回答 例えば海へ来るサーファーをターゲットにバス利用を促すというのは正直なかなか難しいかなと思っています。可能性があるのは駅について一宮町を観光する方が足に困ると想定しているので、駅を拠点にヒアリングを実施したほうがより現実的な意見を聞けるのではないかと考えました。

石尾委員 そこで未来を考えていないと感じました。というのは、高齢者にしても観光客にしても今現状あるものの中で動いている状態でのアンケートであれば、今のものでしかありません。電車を使う観光客が一番来やすいのはこの町ではサーフショップです。そこに電車に来てバスで通うことが出来れば、車で来ないかもしれない。そういう方が何人ぐらい潜在的にいるのかを調査していくのが実際のヒアリングであり、未来を想定したアンケートだと思います。老人であっても、今実際に病院に通っている方でタクシーを使っている方を対象に聞くのではないのです。現状改善では未来は違うものが生まれるのではないかと感じました。

回答 1点だけ補足させて下さい。住民アンケート調査は全世帯を対象に実施したいと考えています。その中で聞く内容は、当然今の行動がどうなっているのかはもちろんで、今の行動に対する満足度、不満、どうあって欲しいのかの要望も聞きます。従って潜在的な需要を捉えることもアンケート調査の目的だと思っています。ただご指教的のとおりヒアリングにつきましては少し弱いと感じていますので、もし業務を担当させて頂ければその辺はご意見を踏まえて改善をしていきたいと考えていますのでよろしくお願い致します。

副会長 3点お伺いします。1つ目は、企画提案書を見る限りではまだ一宮の現状について具体的な予備調査をしたようには感じられなかったのですが、その辺りは今後実施するということでしょうか。企画書には残念ながら予備調査の成果が反映されてなかったように感じました。2点目は、幕張の事例を担当されたということですが、自己評価としてこういう問題があってこういうところが良くてチームの総意で乗り越えたとかそういう話を少し聞かせて頂ければと思います。3点目は、協議会以外でどれぐらい一宮町にお越し頂けるのかお気持ちのほどをお聞かせ下さい。

回答 最後の質問からですが、1つ目にも関わりますが、たしかにこの提案書を作成するにあたってレポートにするほどの現状調査は出来ていないというご指摘はそのとおりだと思います。ただ実際に足を運んで状況を見て、感覚的に感じられるところを分かる範囲で現場の状況は把握していると思っています。ただ当然業務を実施していくにあたっては全然足りていないと思いますので、今後アンケート調査もそうですがこの場所に足を運んで十分調査をしていきたいと思っています。当

然協議会だけ来ると言うわけではなくて、ヒアリング時には参りますし、確認する事項があれば現場に来るのは当然だと思っておりますが、協議会の回数の倍ぐらいは来るだろうと思っております。それから、幕張の例は同じ連携計画ではあるのですが、一宮町とは内容が異なっていて大都市圏の大規模な輸送に関する検討だったので、直接参考にならない部分はあるのですが、良かった点としては、当初は連結バスの走行性を上げる為に、ルート上の信号に PTPS というシステム導入の検討から始まったのですが、我々が現場に入って交通量の調査をした結果、そんなに大掛かりなシステムを導入しなくても信号のサイクルをうまく調整するだけでそれに近い状態を創出することが出来るのを確認出来たので、それを提案し PTPS の導入は将来の課題として残して、連携計画の中では各交差点の整備ということでより現実的な計画としてまとめることが出来たと思っております。反省という意味ではないが、この業務については京成バスと連携して実証することになっていまして、京成バスに頼らなければならない部分があって、その部分については我々の勉強不足であったなというのが反省点かなと思っておりますが、検討チームとして月 1 回から 2 回のペースで半年間会議を行い、かなりの回数を重ねて、その中で京成バスと情報を交換し計画を立案出来たので、我々に足りなかった部分についてはそういうやり方でフォロー出来たかなと思っております。

久我委員 接続のバスは最初ではなく、車をリニューアルした第 2 回目のプランですね。

回答 車をリニューアルしようとする時のものです。

事務局 時間ですのでここで終了と致します。ありがとうございました。
続きまして(株)ライトレールさんお願い致します。
.....(株)ライトレールプレゼンテーション.....

事務局 説明終わりました。質疑に入りたいと思います。よろしくお願い致します。

川上委員 まちづくりに対するサジェスションはとっても良かったのですが、このサジェスションをどういう方法で検証するのか、ヒアリングやアンケート調査など企画どおりそのままやるのか、他にいいのか、お考えを伺いたいと思います。

回答 基本的にはヒアリングとアンケートで行ないますが、問題はヒアリングの仕方だと思っております。ただ単に決められたことを聞くのではなくて、例えばこういうものがあったら皆さんどう思われますかとか、こういうものがなかったらどう思われますかとかと聞くことによって地元の方から本音の部分聞き出して、そういうものがあつたらいいねとか、こういう事情があるからそれは無理だよとかまでいかないとヒアリングをする意味は無いと思っておりますのでまずはヒアリン

グから入っていきたいと考えています。

川上委員 ヒアリングとしては企画書の階層ごとに何件、何人ぐらいを考えていますか。具体的な数字が入っていなかったのと、もし実施するとしたら誰がやるのかお聞きしたいと思います。

回答 規模は最終的には協議会、事務局とのお話で決めていくと思いますが、私のこれまでの経験からすると、だいたい30箇所ぐらい、1箇所のだいたい45分ぐらいになると思います。一週間ぐらい張り付いて行なっていけばかなりの意見が集約できるかなと思います。いろいろなアポイントの関係もあるので、その後に漏れた所を2、3日取ってやっていくことを念頭に置いています。人数は、私を主体として2名一組ぐらいで考えています。期間としては一週間から10日間ぐらいで現地に張り付くことが必要ではないかと考えています。

副会長 4点あります。御社の社員は何名ですか。

回答 現状は5名です。

副会長 今回の業務を担当する方はどなたですか。

回答 実際の責任者は社長の阿部になりますが、実際にここに来て動くのは私です。それともう一人いますので二人で動く形になります。

副会長 実働部隊としてはお二人ということですか。

回答 そうなります。

副会長 住民アンケートについてですが、役場の協力を得て無作為に18歳以上に郵送し郵送で回収するとありますが、全体的にかなり細かくシルバー人材センターや高校生アルバイト等書いてあって、多種多様なものが入っているのですが、見積もりを拝見すると単に数字が並んでいるだけで実際はもっと複雑になるのではないかと思うのですが、その辺りはどのようにお考えですか。

回答 アンケート協力を依頼する場合に、シルバー人材センターを使うのか、アンケート会社を使うのかによって経費は違うのですが、確かに手間はかかると思いますが、予算の範囲内で出来るように考えています。

副会長 どのような予算配分をするかによってアンケートの回収数や回収率が変わってくると思うのですが、どれぐらい発送してどれぐらいの回収を見込んでいるのかお聞かせ下さい。

回答 町の規模からすると全世帯アンケートも可能ではないかと考えています。妥当性は協議会とこのくらいであればこういったアンケートが取れるのではないかと確認させて頂くということで、具体的な実施方法についてはこの場では持ち合わせていませんので、十分予算の範囲内で協議しながらやっていけるという自身は持っています。

副会長 全世帯となると往復の郵送料だけでもかなりかかると思うのですが、その辺りの計上がないというのは私としては不安に思いました。

回答 基本的に今回の調査に関わるものは全て企画書の中に含んでいると

ご理解下さい。体制に部分ですが、私河村も全体の部分につきましては見ておりますので、私も千葉県人で海好きですし、社員は5人ですが昨年もこの人員で全国の7案件をやっています。会社も東京なので必要なときには、まったく不安をかけずに行なっていくことが出来ます。現時点では手持ちの案件はないので、2人でとお話しましたが私も含めてそれ以上のサポートで現地入りできると思います。

石尾委員 単純な質問なのですが、通勤者の移動時間を朝は6時半から7時半、夜は7時半から9時とされていますが、これは時刻表から想定されたものでしょうか。

回答 そのような形で想定しています。というのは、帰りの時間ですともっと遅い時間の方までを対象にすることは可能なのですが、実際その方たちはタクシー事業者の稼ぎの重要な部分を占めているのかなと思ひましてモデルケース的に示しましたが、実際に事業者がどう感じるかによって実際の時間を調べていきたいと思ひますし、大体その時間帯に通勤者が帰ってきているのかというのは実際現地で調べてみないと分からないので、そういった意味ではある程度の想定です。

佐藤委員 調査期間で我々は、出来るだけ多くの方を巻き込んでいく進め方を期待しているので、どうせお金をかけて動くのであれば、プロモーション的な部分でその辺りのお考えがあればお聞かせ下さい。

回答 シルバー人材センターとか、アンケートの時に高校生の参加等書いたようにいろいろな方に参加して頂きたいと考えています。先般いすみ鉄道のアンケート調査の時に大多喜高校の学生がやってくれて、学生の公共交通に対する意識がかなり出てきたということで先生にも喜ばれましたので、やはり住民の方々に手伝って頂けるような仕組み作りが出来たらなと思ひます。ヒアリングの際も老人会とか近所の自治会の会合とかあるならば、参加させて頂いてお話をする機会を作ればと思ひます。

事務局 時間ですのでここで終了と致します。ありがとうございました。
.....休憩.....

事務局 続きまして(株)トーニチコンサルタントさんお願い致します。
.....(株)トーニチコンサルタントプレゼンテーション.....

事務局 説明終わりました。質疑に入りたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

奈良委員 デマンドタクシーは苦戦しているところが多いですが、どうお考えでしょうか。

回答 まず需要を目論むのが難しいところがあって、はっきりしているのはデマンド交通では収支はでません。どんな形で運行しても必ず赤字になります。赤字になる大きな要因は二つあって、一つはそもそもの需要を読み違えているということ、もう一つは既存のデマンドタクシー

に共通することですが、システムの維持費が非常に高いということがあります。従って私たちが提案させて頂くデマンド交通に関しては、まず利用対象者を本当に絞り込むこと、公共交通を利用しないと生活出来ない方が一体何人いるのかというところをスタートラインにしたいと思っていますので、それに合わせたシステムを提案させて頂きたいと思います。デマンドとお答えしていますが、ひょっとするとタクシー補助券でも十分用が足りるというようなこともあるのかなと考えています。システムについては、予約やルート検索の為のシステム維持費が自治体によっては800万円とか1,200万円だとか年間コストがかかっているところもあります。ただ一宮町はエリアがあまり広くなくて、集落も限られている所なので、複雑なルート選定ソフトを使わなくてもデマンド交通がいけるのではないかと考えていますので、費用を節約したデマンド交通の実現性といったところを検討の柱にさせて頂きたいと思います。

川上委員 頂いた企画提案書と今のプレゼンテーションの間に相当一宮の状況を調査して来ていると思いますが、アンケートのやり方や数は、スタディーする前と後では変わっていないのか、このままでやるのか、または違いがあったのでここはこう変えたい、予算の変更などありましたらお聞かせ下さい。あと宿泊施設というのはどういう所を指しているのかをお伺いしたいと思います。

回答 アンケートの配布回収に関する大枠は、我々も何度か地方自治体の公共交通の仕事をやっていますので、大体これぐらいのアンケートの回収率が得られれば有意な回答が得られるというのはある程度情報として前もって持っているので、現地に入る前から一宮町の規模であればこの程度でいけば有意な情報を取れるであろうと考えていましたので、基本的には状況を見てきた中で企画提案書と内容を相違させるところは無いとお答えします。それから観光の送迎交通ですが、これは我々も表面的に見てきただけなので、必ずしも当たっているかどうかは分かりませんが、県道沿いに比較的大きな宿泊施設があって、駐車場を見ると宿泊施設名が付いたマイクロバスが何台か停まっている状況を見てきています。ホームページを見ますと自社で送迎バスを運行していますというホテルが2軒とゴルフ場が1軒ありましたが、休日のピーク時に相互集配をやれと言っても無理だと思いますが、平日やオフシーズンであれば一軒一軒が送迎用バスを持っていないかということでもスタートに立っていますのでそういう提案をさせて頂きました。

川上委員 一宮の宿泊施設の中には健保だとかその他の年金組合だとかの宿泊施設が比較的大きい所があって、そこも送迎バスを持っていますので、そういったところも視野に入れているということですか。

回答 共同で運行しようというのにはなにも大きな会社だけではなくて、参加してもらえるところがあれば、今送迎バスを持っていないところでも参加して構わないと思います。需要の少ない時に何度もバスを動かすというのは無駄なので、それを別のことに使いましょうということで提案させて頂きました。

石尾委員 この計画の根本にあるのは赤字を出さない公共交通システム作りですか。

回答 赤字を出さないとはまでは言えないと思っています。今の公共交通は余程の都市部で無い限り、何をやっても赤字が出ます。ですからその赤字をどこまで耐えられるのかというハードルを最初に決めておく必要があると思います。町によって考え方は違うので一概にどこまで耐えられるのかとは言えませんが、一宮町だったらどこまでの負担に耐えられるのかを協議会の中でよく議論して頂いて、そのハードルを決めた中でそれが達成出来るような公共交通システムは何なのかという提案をさせて頂きたいと考えています。

石尾委員 ということなのですね。シンプルに言うともうそういうことを考えて計画を立てているということですね。どこの市町村でも公共バスは赤字になっているということがベースになっているようですが、赤字がどうかと言うより町の活性化と未来の姿に重点を置いていないように感じたのですが。今現在自家用車を利用している人ではなく、自家用車を利用していない方にヒアリング等を行なうことで、公共交通を走らせたとしても自家用車を利用している人は自家用車のままになってしまいますよね。

回答 実は我々の経験の中で、理想として自動車から公共交通に乗り換えて欲しいというのは当然あって、その理想を追って作業は進めているのですが、現実に蓋を開けてみると自動車を利用することに慣れている方が公共交通に転換するというのは非常に難しいところです。実は我々も一度それで実際に失敗した事例があります。ですので、そういったところも含めて、どうすれば自家用車から公共交通に転換できるかというアイデア出しはやっていきたいと思いますが、それを最初から見込んだ事業計画というのはリスクが大きいので避けたいというのが本当の所です。

石尾委員 そこが大きく違うと思ったのですが、実際に失敗した事例を持っていて問題点をよく分かっていると思うので、その問題点を踏まえた上で自家用車から公共交通に乗り換える手段は一体何なのかを頂きたいと思います。そうでないと実際に財政が苦しくなって作った公共交通が立ち行かないということになりかねないので、たくさんの方が利用する公共交通を作るといのがやはり将来の姿ではないでしょうか。

回答 おっしゃることは正しいことだと思いますし、重々承知していますの

で、我々がどのような所でどのようなことをやって失敗したかというノウハウを逆に生かしていただけるような提案も出来ると思っています。

石尾委員 ですので、自家用車を使っている人にこそあえて聞いてほしいと思うのですが。

回答 基本的にアンケートは全世帯からの抽出を考えていますので、公共交通を使っている方を対象にしないとは考えていないので、そこでなにかヒントをつかめればそれを生かす提案をさせて頂きたいと思います。

川上委員 もうちょっと軸を説明して頂きたいのですが、観光客と言っていました。はっきり言うと一宮に来る年間35万人の観光客で一番多いのはサーファーなのです。その属性をどうするか、それ以外の人と分けるのか、観光客というくくりをどうお考えなのでしょう。

回答 具体的にサーファーで来られる方の属性は違うと思いますが、ここで具体的にどう分けるかというアイディアは今後アンケートをする段階で考えさせて頂きたいと思います。

副会長 様々なコンサルタントから企画書を提出して頂いて、お話を伺っていますが、アンケートをとる分量と回収率が随分皆さん違っているのですけども、先程のお話だと今までの経験に基づいて4600世帯から2000世帯を抽出して5%の回収率で500程度のサンプルを得て、前世帯の1割ぐらいで十分だとお考えのようですが、今までの経験で大体この程度というのがあるのでしょうか。

回答 提案させて頂いている回収率は、他の自治体でやっている回収率よりも高めに設定しています。通常は全世帯の2%から3%回収できれば十分な情報が把握できるという風に考えていますが、今回は1割ぐらい回収したいと思っています。というのは、本当に公共交通を使いたいと思っている方がどれだけいるのかという分析をきちっとやっておきたいと思いましたので、他自治体の回収総票数より高めに設定させて頂きました。

石尾委員 すごく単純な質問なのですが、飲食店が非常に多い町なのに、飲食店を含めた循環バスが考えられないのはどうしてでしょうか。

回答 可能性はあると思いますが、全体的な需要量を見ると、ご自分が飲む頻度を考えてもらえばわかると思いますが、一週間に何度も飲みに行くってわけではです。基本的に需要量としては非常に小さいと考えていますので、それだけを当てにして公共交通を成り立たせようとするとかなり難しい部分があります。地元の商店街とか飲み屋さんの連合とかに協力頂いて、飲み台のうちの何割かを送迎用の公共交通にまわしてもらうこと等は考えられます。

石尾委員 循環バスの運行経路や曜日は確定していないといけないものなので

しょうか。

回答 そういうことはないと思います。一番の問題はどこから運行資金を持ってくるかということだと思います。飲む方に安心して帰れるのだからちょっとくらいお金を払ってよとするのか、お店にお客さんをいっぱい呼んでくるから少しお金をちょうだいと言うのかどちらかだと思います。

事務局 時間ですのでここで終了と致します。ありがとうございました。
続きましてランドブレイン(株)さんお願い致します。

．．．．．ランドブレイン(株)プレゼンテーション．．．．．

事務局 説明終わりました。質疑に入りたいと思います。よろしくお願い致します。

川上委員 テクニカルな話なのですが2点あります。1点は、全町内全世帯のアンケート調査を4700世帯やるということで、郵送回収でどれくらいの回収率を見込んでいるのか、それと見込んだ回収率のサンプル数で十分なのか。もう1点は、町民意見交換会に住民の方が参加した場合に、実際のニーズを持った方ではなくて公共交通はこうあるべきだと言うオピニオンリーダー的な人が出て来た時の意見がそういう方に左右される可能性があるのですが、それをテクニカルにどううまく排除するのかの方策をお考えかどうかお伺いします。

回答 回収率の件は、通常だと3割以上と言いますが、一宮では4割ぐらいは可能性があると思いますので、サンプル数は1,800票くらいあるだろうと考えています。6地域別に分析すると言いましたが、1地域大体200票程度あれば統計的にも対応可能なので、十分な回収量になると思います。意見交換会の件は、運営の仕方は少し工夫が必要だと思っています。いわゆる教室型で対立するような構造になるといろいろな不満が出てきますので、テーブルを分けてそこに協議会の方も入って頂いて話し合いをするようなパターンでいけば、あまり突飛な意見は抑えてもらえるだろうと思います。そこである程度のやりとりが出来るので十分な対応が出来ると考えています。

石尾委員 単純な質問なのですが、住民アンケートは住民に対して1回だけですか。

回答 はい。そのつもりです。

石尾委員 例えば小中学生、高校生、通勤者、高齢者、主婦、飲食店経営者というカテゴリー分けと住民アンケートと両方がみ合わせていく手法は入れないのですか。

回答 全世帯にお送りするので町民の方が中心になりますが、当然高校生や商売の方もいるので、アンケートの中に属性ということで職業や年齢を入れますので、それで分類して属性毎の分析をやっていくつもりです。

久我委員 ランドブレインさんとは他の協議会でも一緒にやっていますが、この町は、今までの例とは丸きり違うのです。青葉台のあおバスの場合は、住民がバスを必要としている中での運行であるし、大網白里町の場合は、交通空白地帯にある程度の人口を持っている中での運行です。一宮町の場合は、メインは鉄道だと思うのです。その中で果たしてバスに対するニーズが他の地区と同じようなデータで出るのか、そこら辺が最大のキーポイントだと思うのです。いろいろなバスを走らせれば誰かは使うのでしょうか、ちょっと県内でやっている他の地域とは話が違うなと思います。私もこの地域に住んでいるので分かることは、浜通りはサーフィンが話題になっていますが、細田など山の中やちょっと街中に入った住宅街のお年寄りが本当にバスを使うのかというところに視点を向けて、今までと同じ視点ではこの町の為になる答えにはならないと私は思います。やり方としてはオーソドックスなやり方をしているけども、もうちょっとこの町のことについて研究してもらいたいなと思います。

回答 今回の企画書を作るにあたって、何度もこちらに足を運んでバスにも乗らせて頂きました。やはりバスは子供達の利用しかなく、浜通りでは地元の方にお話を聞いて、困っている高齢者がいるという話も聞きました。観光の面で言いますと、サーファーで駅から歩いて来る人がいて夏場に夏と店に駆け込んでくるという話も聞きました。現在バスが無いから移動しないというのもあるのですが、小さい車両でも良いので公共交通があることによって移動が誘発される面もあるので、いろいろな意見を掘り起こすような調査をしたいと思っています。通常のアンケートをやるとなかなか公共交通を利用するという答えが帰ってこない傾向があるので、いろいろな町民の方の生の声を聞きながら進めていきたいというところが他の地域とは違う提案だと思います。

石尾委員 コミュニティビジネスモデルであるとか、あおバスは非常におもしろいなと思いますが、今どのような状況で成功しているのでしょうか。

回答 あおバスは小湊鉄道が運行されていて、非常にたくさんの方が利用していて成功していると思っています。利用者は一日350人ぐらいで、もともとバスはなくニーズはあった所なので、団地ですし、一宮町とはちょっと様子が違うのは確かです。一宮町は旧市街地ですのでなかなかニーズを掘り起こすのが難しいところはあると思います。コミュニティビジネスについての例はまだまだ少ないです。五島市は非常に注目すべき例だと思います。グリーンツーリズムとバスの連携など、観光との連携についていろいろな形が出来つつあるところだと思います。総合的な面で見えていかないと、なかなかバスだけでは需要が出てこないと思っています。

- 石尾委員 五島市は成功しているのですよね。
- 回答 成功していると思います。グラフが利用状況を表していますが、ずっと増えています。
- 副会長 今回の提案はバスが中心になっていて、一宮の実態に対してバスのみを想定するのは再考の余地があるのではないかとのお話もありましたが、隣のいすみ市でランドブレインさんは業務を行なった中で、いすみ市は合併をして地域も広がってバスに乗る場所と乗らない場所がいろいろあったと聞いていますが、いすみ市の策定経験を踏まえたご意見を頂けますか。
- 回答 いすみ市は、大原駅周辺など需要がかたまっている所とまったく需要の無い所があって、需要の無い所は路線をカットしています。P D C Aとよく言いますが状況を見ながら変更していくという観点でやっています。一宮町は、駅周辺に住宅が多いので需要があまりまとまっていらないと思いますので、バスと言っても乗り合いタクシー等も含めて、小さい道まで入っていける小型の車両できめ細かくサービスすることも含めて考えていく必要があると思います。そういうつもりでいるので、説明が少しバスに偏ったかもしれませんが、バスだけではないと思っています。ただその時に小湊鉄道のバスとうまく連携を図らないと片方が悪くなってしまうので、そのつなぎの部分の部分をいかにやっていくかが非常にポイントだと思います。
- 副会長 前田さんを中心に3人でチームとしてやっていくのですか。
- 回答 はい、この3名とあと会社にも2名担当がいますので5名体制でやっていきます。調査の中身によって全員が同じようにやるのではなくて、担当分けをしてやっていきます。
- 佐藤委員 非常に良い提案書なのですが、今流行のエコバスとかエコカーなどの導入をどこかの企業とからこの町に持ってきて、モデル的な都市としてNHKなどに取り上げられるようなテーマ性のあることをお考えでしょうか。
- 回答 今ここで出来るか出来ないかの回答は難しいですけど、観点としては非常に大事だと思います。最近ではハイブリッドカーや電気自動車が目立っていますが、バスとなるとハイブリッドバスがやっと動きだしたぐらいなので車両価格が高いです。どこまで対応出来るかわかりませんが、アタックしてみたいと思います。
- 事務局 時間ですのでここで終了と致します。ありがとうございました。
続きまして国際航業(株)さんお願い致します。
・ ・ ・ ・ ・国際航業(株)プレゼンテーション・ ・ ・ ・ ・
- 事務局 説明終わりました。質疑に入りたいと思います。よろしくお願い致します。
- 石尾委員 効果的なアンケートの手法などのアイディアがありましたらお聞か

せ下さい。

回答 今回に関してはポイントが2つあります。1つは地域にどれだけ使ってもらえるかという点では区長さんとかをうまく使って、もう一つは観光客にどうアンケートをとるかという点です。観光客へのアンケートについてはすぐには送れないものなので、JRで来られた方を対象に駅で配布して回収は郵送で行ない、車で来られた方、特にサーファーの方を対象に海水浴場で直接手渡し、もしくはその場でヒアリングをするという形で直接声を聞いて意見を吸い上げていきたいと思えます。当然観光だと休日なのでその辺は考慮して実施していきたいと思えます。

石尾委員 住民に対してのアンケートは一度だけですよね。

回答 今のところそう考えています。

石尾委員 駅利用者とか観光とかそのポイントポイントで違う所でアンケートを考えていないのでしょうか。郵送で返ってこないのも病院とかスーパーでヒアリングを行なうなどするのではないのでしょうか。

回答 そういった意味では全網羅的にだすのですが、偏りや不足する部分はいっぱいあると思えます。特に割合で切ってしまうと地区によっては元々少ない所の意見は吸い上げられないと思えますので、駅とかスーパーでのフォローは必ず必要だと思えます。観光客についても一宮に来る観光客はサーファーなど多いですし、自転車の方もいますし、リピーターが多いと思うのです。そういう点では状況が分かっている人が多いと思えますので結構期待できるのかなと思えます。

佐藤委員 第三者レビューアーの宇都宮共和大学教授とありますが、実はこの協議会で地元の城西国際大学からも企画提案を頂いているのですが、地元の大学とのコラボも可能なのでしょうか。

回答 それは可能です。この第三者レビューアーは社内の体制として考えているものなので、一番必要なのは地元での考えをきちんと把握していくことだと思えます。

佐藤委員 今回アンケート等の調査をスタートするにあたって、一言で言うと一宮のバスに関するキーワードは何でしょうか。要するにテーマ性を持ってアンケートにあたるのかどうか、住民の方がなるほどと思うような考えをお持ちなのかをお伺いしたいと思います。

回答 持続可能で利便性の良いなど。

佐藤委員 うーん、おもしろくないな。皆でNHKに出ようとか世界一の循環バスにしようとかそのような事はないのでしょうか。無いのならそれで良いです。

川上委員 この地域は小型でなどと地域分けをしていましたが、それと住民アンケートはどう連動させるのでしょうか。今のお話を伺っていると、住民アンケートは大体同じものをばらまく感じですよ。最初からこう

いうニーズがあるのだからこういうバスを走らせるとする場合、普通だと仮説を立証するようなアンケートをするのですよね。そういうわけ方はしないのですか。

回答 アンケートには二つあって、統計的な手法で回答するべきものだと思っていますので、当然仮説を立てながらそれが合っているのかどうか検証しますが、そこに住んでいる人だけではなく、全体的な意見を聞いて統計的に分析しようと思っています。ただ、相違性を持った設問にしないといけないと思っています。

副会長 例えば住民説明会みたいなものは企画書の中にはなかったのですが、その辺りについてはどのようにお考えでしょうか。

回答 その点については書き込んでいませんでした。私も住民参加系は大好きで、ある意味当たり前のことだと思っていたので書ききれていませんでした。

小松委員 南巡回ルート の環境に考慮したバスCNG車やHIMR車とありますが、こういうものを導入する見込みと意味を教えてください。

回答 CNG車やHIMR車というのは、ガソリンなどのCO₂発生燃料に比べてCO₂の発生が少ない燃料、環境にやさしい燃料で走るバスの略称です。実際に導入するかは2つの意見があると思います。実際に小湊鉄道が走らせているバスがありますが、そういうものを再利用することで費用を浮かせるという案と、こういう環境にやさしいものを導入して利用する方へのアピール材料にする案と二通です。予算の関係もありますので、アンケート等の中で住民の方の意見を参考にして決めさせて頂きたいと思います。実はこの議論は社内でもしてしまして、僕は既存部分をうまく使って採算を重視したほうが良いのではないかと主張したのですが、ここにいる若い連中がそうではなくて町のイメージを含めることも考えなければいけないのではないかと言うので、社内でも意見が割れたのですがそういうオプションとして考えています。

久我委員 非常に良い考えだと思いますが、これはとてもお金がかかるやり方です。今まで発表があった中でこれは一番お金がかかります。CNGにしてもスタンドも無いのにどうやってCNGをやるのか。現実的に不可能なことです。非常に見た目には立派な企画ですが、もうちょっと現場の声を聞いてもらえれば違った考えが出ると思います。一宮地域は千葉市のほうとは違って環境に対する規制は無いのです。走れるバスなら何を使っても良いのです。千葉市内では10年までしか使えないのですが、そういった千葉で使ったものをこちらで使うなどしているので、計画性を考えるとお金のかからないことを前提に考えをまとめていかないと持続性が一宮の問題になってくるのではないかと思います。

- 回答 おっしゃる通りだと思います。そのところを考えながらバランス良く進めていきたいと思っています。
- 副会長 もし海岸へ向かう小湊鉄道のバスが廃止された場合として周回バスを描いたと思うのですが、我々としては廃止を全く望んでいないのです。予備調査の段階で出た案だと思いますが、業務を請けて具体的に調査した場合、相当な転回がありうると思うのですが、その辺りについてはどうお考えですか。
- 回答 廃止がなく再編の中でこれが出来るかどうかはまず1点考えられます。これが無かった場合、心を突くというのをどうやって評価するかというのは考えなければいけないと思いますし、観光を考えるとこういう流れは必要になってくるので、外のやり方も再度考えていく必要があると思います。
- 久我委員 一宮海岸沿いはまったく不採算です。小学生は80人くらい、しかも半額です。しかし、私どもは一宮町とは長い関係があるので、代わりのバスが出来れば当然撤退しませんが、会社としても小学生の足は守っていきたいと思っています。今日の会議全体を聞いていて、必要衛があるか無いかは別として、バスが無いと一宮町のステータスやグレードが下がるのではないかと思います。夏の太東からの路線や船頭給や一松海岸のほうも以前は走っていましたが、現在の路線規模に縮小してきているので、このような計画で走らせては皆さんの大きな期待を乗せてしまう危険性があると思います。しかし、これだけの町にバスも走っていないとなると困るので、ある程度の走らせ方は必要だと思います。あとバスの使い方があります。通勤通学に使うのか、日中のお年寄りの通院に使うのか、商工観光に使うのかありますが、サーファー対象と生活対象の公共交通を一緒にするのは非常に危険です。前に夏場だけ町の予算からアシストして頂いてトラ見海水浴場からの路線を走らせたのですが、利用はほとんど土日だけという実態だったので、町のセクションも違うので、生活路線と商工観光路線を一緒にするやり方は危険です。
- 事務局 時間ですのでここで終了と致します。ありがとうございました。
- 会長 会議を再開します。プレゼンテーションが終わりました。議題(2)「一宮町地域公共交通総合連携計画調査策定業務の業者選定について」を上程させて頂きます。業者を選定する前にご意見のある方はご発言をお願い致します。
- 奈良委員 人数の少ない所は危険だと感じました。
- 副会長 5月28日の会議資料の一覧にも従業員数がありましたが、ランドブレインは会社案内に社員は全社で約100名いると書いてあります。オリエンタルコンサルタンツが928名、国際航業が1154名、ライトレールは5名、トーニチコンサルタントが267名の社員がいる

となっています。ライトレールは先ほど5名と言っていましたし、たしかに少なすぎるなと感じはします。

久我委員 結局1社に決まっても提案どおりにいくわけではなく、いすみもそうでしたが状況に応じて変わっていくのです。町がわがまま言った時に対応できる会社でないといけないと思います。

川上委員 私は、トーニチコンサルタントは5社に選ばれた後によく調査をしたなと感じましたが、その努力を認めるかどうかは別として、企画提案書と今日のプレゼンではレベルがまったく違うのです。

佐藤委員 地域公共交通を住民が主としてやれるのか、協議会はどういう立場か、うまくいった成功事例を聞くと住民主体のほうがうまくいくような言い方もありましたし、我々協議会はどういった視点で業者を決めるのかは、まちづくりと絡めていったほうが良いのではないかと思います。海岸侵食問題にも住民の方が多数関心を持っていますし、従来の歴史と伝統の他にも今後の高齢化とかサーファー等の新しい文化もいろいろありますし、業者を選んだ後も町長としてはどのようにお考えであるのかお聞きしたいと思います。

会長 まちづくりにも深く関わる問題なので、私は基本的に住民の方とお話をして意見を聞いて決めていきたいと考えております。

奈良委員 契約も含めてすべて町ではなく協議会で行なってもらいます。住民に対してはパブコメをすることになっています。

会長 それでは1社に選定するため、投票で決定します。投票用紙を配布しますので、1社を選んでをつけて下さい。

・・・・・・投票・・・・・・

事務局 投票結果は、トーニチコンサルタント7票、ランドブレイン5票、国際航業5票、オリエンタルコンサルタンツ1票、ライトレール0票以上です。

会長 それではトーニチコンサルタントに一宮町地域公共交通総合連携計画調査策定業務をお願いすることになりました。今後は協議会とトーニチコンサルタントで連携計画を策定していきますのでよろしくお願い致します。

今後の予定について事務局からお願いします。

・・・・・・事務局説明・・・・・・

森田委員 今までもらった各社の資料はどうしたら良いでしょうか。

事務局 処分して頂いて結構です。

副会長 これからのトーニチコンサルタントの業務の参考に使えると思うので今後もお持ちになってはいかがでしょうか。

白井委員 それは違反になってしまいますよ。本当は回収したほうが良いのです。

川上委員 全部使うのはだめですが、その中の一部をポイントポイントで参考にするのは問題ないと思います。

森田委員 とりあえず手元においておくということで良いですね。

会長 それでは本日長時間にわたり慎重審議ありがとうございました。ここで議長の任務を解かさせて頂きまして、進行を事務局にお返しします。

事務局長 本日はお忙しい中ご出席頂き、また長時間にわたり、慎重審議ありがとうございました。本日は閉会とさせて頂きます。ありがとうございました。